様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2020
課題番号：１９Ｋ２３１６８

研究課題名（和文）両大戦間期リトアニア研究の促進に向けた総合的データベースの構築とその公開

研究課題名（英文）Construction and Public Disclosure of Integrated Database for the Promotion of Researches on Interwar Lithuania

研究代表者
重松　尚（Shigematsu, Hisashi）

東京大学・大学院総合文化研究科・助教

研究者番号：９０８５０９１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1923年に実施されたリトアニア全国国勢調査の結果と両大戦間期に行われた国政選挙（1926年までに4回実施）の投開票結果のデジタルデータ化に取り組んだ。また、人口統計（1927年から1938年まで毎年実施）についても、一部データ化を行った。
当初計画していた1925年に実施されたクライペダ地方国勢調査のデータ化については、リトアニアでの資料収集が行えなかったため中止した。
また、本研究で得られたデータの一部を用いて論文・書籍（分担執筆）・口頭発表などを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
両大戦間期リトアニアで実施された国勢調査などの統計をアクセスしやすいデジタルデータに変換することで、当時のリトアニアの社会状況などに関する分析がより容易に行えるようになった。したがって本研究は、学際的共同研究の可能性を広げ、両大戦間期リトアニア研究の促進に大きく寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：In this project, I worked on digitizing the results of the Lithuanian national census in 1923 and the results of the parliamentary elections during the interwar period (held four times by 1926). In addition, some statistics were also converted into digital data.
It was originally planned to digitize the results of the Klaipeda regional census in 1925, but it was canceled since it was not possible to go to Lithuania to collect data because of COVID-19.
Moreover, I used some of the data digitized in this project in my paper, book (coauthor), oral presentations.

研究分野：リトアニア地域研究

キーワード：リトアニア　地域研究　近現代史　国勢調査　統計

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

「社会に開かれた基礎的学問」である地域研究の方法論的特性として、「現地研究」と並んで「資料収集・整理・公開」が挙げられる（『地域研究の総合的な推進方策に関する調査研究』地域研究の総合的な推進方策に関する調査研究委員会、2001 年、14 頁）。すなわち、地域研究を担う研究者は、ただ現地で調査を行うだけでなく、積極的に資料を収集し、さらにそれをアクセスしやすい形で公開することが求められている。他方で、近年の「ビッグデータ」という言葉に象徴されるように、デジタル・データの重要性も飛躍的に高まっている。社会科学においてはデータ・サイエンスの手法を用いた計算社会科学と称される学術領域が、人文学においてはデジタル・ヒューマニティーズといった分野が登場して久しい。しかし、このような研究動向にあってなお、地域研究に携わる研究者からのデジタル・データの提供はほとんど進んでいないのが現状である。

申請者が専門とするリトアニア地域研究に関していえば、日本国内では、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの「中東欧・旧ソ連諸国の選挙データ」（研究代表者：仙石学）で本研究の研究代表者がリトアニアのデータ（1992 年～）を作成・公開しているほかに、現地資料公開の事例はない。日本国外に目を向けると、リトアニア統計局が両大戦間期の統計データの一部を公開しているが、公開されている内容は限定的である。また、リトアニア国内の各図書館と欧州連合（EU）の諸機関が連携し、第二次世界大戦以前に出版された図書をデジタル化する動き（例えば epaveldas.lt など）もあるが、データを画像として保存・公開するのみとなっている。そのため、研究のさらなる進展にあたっては、より網羅的なデジタルデータをアクセスしやすい形式で構築・公開する必要がある。

２．研究の目的

そこで本研究では、両大戦間期リトアニアに関する統計データのデジタル化とそのデジタル・データの公開を目的とした。

３．研究の方法

当初は、リトアニア国立中央文書館、リトアニア・マルティーナス・マジュヴィーダス国立図書館、リトアニア科学アカデミー図書館、ヴィルニュス大学図書館の 4 機関で資料を収集する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、リトアニアに渡航することができなくなった。そのため、別の研究プロジェクトですでに収集済みであった資料をもとに統計データのデジタル化に取り組んだ。

具体的には、

・リトアニア全国国勢調査の結果 ― 1923 年に実施
・両大戦間期リトアニアで行われた国政選挙の投開票結果 ― 1926 年までに 4 回実施
・両大戦間期リトアニアの人口統計（一部） ― 1927 年から 1938 年まで毎年実施

の 3 点のデジタル化に取り組んだ。

なお、当初計画していた 1925 年に実施されたクライペダ地方国勢調査のデジタル化については、リトアニアでの資料収集が行えなかったため、中止せざるをえなかった。

４．研究成果

本研究では、上記 3 点に関する当時の資料をもとに、画像処理や光学文字認識（OCR）処理などを施した上で、デジタル・データ化を行った。デジタル化されたデータは、今後、CSV など利用しやすい形式で順次公開される予定である。

両大戦間期リトアニアで実施された国勢調査などの統計をアクセスしやすいデジタル・データに変換することで、当時のリトアニアの社会状況などに関する分析がより容易に行えるようになった。各種データの相関関係に着目し、当時のリトアニアにおける各民族の社会構造の違いや、社会階層ごとの支持政党の違いなどの分析を進めている。また、民族間結婚の割合の違いなどから、民族間関係の違いも推定できるようになった。さらに、当時のリトアニアにおいては民族ごとに異なる学校教育制度が採られていたが、各民族の年齢別の識字率などのデータから、民族学校教育の教育効果の違いなどを推定することも可能となっている。以上は、各種データを利用した分析の一例に過ぎず、今後データの公開が進めば、国内外の研究者がこのデータを利用することで、本研究の研究代表者の想定を超える研究が行われることが期待される。したがって本研究は、学際的共同研究の可能性を広げ、両大戦間期リトアニア研究の促進に大きく寄与するものである。

なお、本研究で得られたデータの一部を用いて論文・書籍（分担執筆）・口頭発表などを行った。例えば、論文「権威主義政権に対抗するファシズム体制構想―リトアニア人行動主義連合（LAS）の分析を中心に」（『国際政治』第 202 号、2021 年 3 月、47～60 頁）では、背景として両大戦間期リトアニアで行われた国政選挙の投開票結果に触れている。また、ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開―地域比較の観点から」（2021 年 1 月 23 日、科

学研究費助成事業・基盤研究（B）「第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害の比較研究」（20H01338）／東欧史研究会／早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所（WINE）共催）での口頭発表「両大戦間期リトアニアの反ユダヤ主義的言説と事件」においては、当時の反ユダヤ主義の背景として、各民族の社会構造の違いなどをデータから説明した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 重松 尚	４．巻 202
２．論文標題 権威主義政権に対抗するファシズム体制構想―リトアニア人行動主義連合（LAS）の分析を中心に	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国際政治	６．最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 重松尚	４．巻 61
２．論文標題 ［書評］ユーリー・コスチャショーフ著『創造された「故郷」：ケーニヒスベルクからカリーニングラードへ』橋本伸也、立石洋子訳（岩波書店、2019年）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ユーラシア研究	６．最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 重松 尚
２．発表標題 両大戦間期リトアニアの反ユダヤ主義的言説と事件
３．学会等名 ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開―地域比較の観点から」
４．発表年 2021年

１．発表者名 重松 尚
２．発表標題 1930年代リトアニアのカトリック青年知識人と有機的国家構想
３．学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター公募プロジェクト型共同研究「戦間期東欧社会の権威主義体制と極右民族主義勢力の分析―グローバル・ファシズムの潮流に注目して」ワークショップ
４．発表年 2021年

〔図書〕　計2件

1．著者名 エスニック・マイノリティ研究会 編	4．発行年 2020年
2．出版社 東京外国語大学海外事情研究所	5．総ページ数 220
3．書名 多様性を読み解くために	

1．著者名 櫻井映子編著	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 404
3．書名 リトアニアを知るための60章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関